



世界人権宣言と人権フェスティバル

世界人権宣言

私達は、人権という言葉を当たり前に使っています。「人権」が世界中に広まったのは、1948年12月10日、第二次世界大戦を反省し、国際連合で、「世界人権宣言」が採択されたことが、大きなきっかけとなっています。

全ての人に基本的な人権があるとし、あらゆる人と国が達成しなければならぬ人権基準として「世界人権宣言」が採択されました。これを記念して、12月10日が世界人権デーとされました。

「世界人権宣言」は、前文と30の条文で構成されていますので、全部を紹介することはできませんが、一部を紹介します。

前文には、人類社会のすべての構成員の固有の尊厳と平等で譲ることのできない権利とを承認することは、世界における自由、正義及び平和の基礎である等のことが記されています。

そして、第一条に、「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない」と謳われています。

また、第一条に、「すべて人は、人種、皮膚の色、性、言語、宗教、政治上その他の意見、国民的若しくは社会的出身、財産、門地その他の地位又はこれに類するいかなる事由による差別をも受けること

なく、この宣言に掲げるすべての権利と自由とを享有することができる」とさらに、個人の属する国又は地域が独立国であること、信託統治地域であると、非自治地域であると、又は他のなんらかの主権制限の下にあるとを問わず、その国又は地域の政治上、管轄上又は国際上の地位に基づいていかなる差別もしてはならない」と規定されています。

人権週間

日本でも、12月4日から12月10日の一週間を「人権週間」と定め、人権についての意識を高めるため、各地で様々な啓発活動を行っています。

人権フェスティバル

国東市では、12月1日(出)に、武蔵セントラルホールで、第17回武蔵町人権フェスティバルが、また、12月2日(日)には、安岐総合支所の2階会議室で、第10回安岐町人権フェスティバルが開催されました。

武蔵町・安岐町ともに、小中学生による、「人権やいじめについて考えたこと」「拉致の怖さ」だれにでも同じように「私の弱さ」等の作文朗読がありました。武蔵町では、行政区の人権ふれあい行事・おさし苑の取組の発表・園児や小中学校と市民の発表が、安岐町では、「なかまをつくる部落に生まれて」の講演会が行われ、多

くの市民の学びの場となりました。今後、1月・2月には、国東町や国見町で人権フェスティバルが開催されます。「人、集つところに人権あり」です。

市民の皆様方のご理解とご協力をお願いするとともに、多くの市民の皆様方の来場を心よりお待ちしております。

(文責：武蔵分室 田城)

◎今後の人権フェスティバルについて

【国東会場】
 日時 1月19日(出)
 午前9時30分～正午
 場所 アストくにさきアストホール
 内容 人権作文朗読、国東中発表、人権講演会、作品展示など

【国見会場】
 日時 2月2日(出)
 午前9時30分～正午
 場所 みんなかんホール
 内容 人権作文朗読、国見中発表、人権講演会、作品展示など

●第12回国東市隣保館まつり
 「こころの川柳」
 課題《夏休み》応募作品

抱っこされ
 本読む孫の夏休み
 国東町 詠み人知らず

七人の
 孫来て財布の紐ゆるむ
 安岐町 古城 廣海

こころをつなぐ まちづくり

人権シリーズ vol.152

市長室から

市長日記

92

『鬼、鬼、鬼そして鬼』

国東市長 三河 明史



11月14日(水)、国東町岩戸寺の講堂で、「地域ソーセイプロジェクト 商品ヒット鬼願祭」なるものが行われました。

これは、国東高校双国校と商工会、行政がタッグを組んで、新商品の開発に取り組んできたものです。工夫と試行錯誤を繰り返しながら、このたび三つの商品「赤鬼パーガー」、「青鬼パーガー」そして「鬼おんちつぷす」が完成しました。

鬼願祭とは、岩戸寺の講堂において、住職にこれらの商品のヒットを「ゴマ」を焚いて鬼願(祈願)してもらおうのです。

講堂には、住職の他、双国校の生徒達と校長他先生達、商工会の会員達、そして行政の関係者達、その他報道関係者の皆さんが詰めかけました。

住職は、護摩壇に積まれた護摩木に点火し、しばらくすると煙が上がりはじめました。すると住職をはじめ僧侶達が、般若心経を唱え始めました。読経が最高潮に達し、炎が燃え上がると護摩木をどんどん投じていき、商品ヒットの「鬼願祭」が無事終わりました。

ところで、商品にはどれも「鬼」がついています。これは、国東が、5月24日に「鬼が仏になった里『くにさき』』というテーマで、文化庁から「日本遺産」に認められたことによるものです。国東の鬼は、村人に幸をもたらす良い鬼なのです。その鬼の里にちなんで、商品名に鬼を入れたのです。

さて試食ですが、「鬼おんちつぷす」は、タマネギをプレスしたもので、パリッパリとした食感で、食べ出したら止まらないのです。油を使っていないので手がべとつかず、ヘルシーでもあります。パーガーは、高校生が食べたいものということでハンバーガーにしたそうです。「赤鬼」は、「ないしょのパンアスク」さんのパンズ、桜王豚のロース、「奥松農園」のトマト、レタスなど、贅沢な材料をふんだんに使っており、辛子入りのパンズでピリッと辛いパーガーです。「青鬼」は、これも「アスク」さんのパンズに、ブトエビクリームコロッケ、「奥松農園」のトマト、キャベツとレタスが加わり、バジルのタルタルソースにバジルのパンズというこれもオール国東産の贅沢な材料を使っており、質量ともに良いものができました。

パーガーは、ご当地パーガーとして、チップスはスナックとして売れば良いなあと思っています。高校生の皆さん、協力してくれた皆さん、ありがとうございます。

平成31年・2019年版の県民手帳を販売中です

- 価格 600円(税込)
- サイズ 14.9cm×8.9cm
- 内容 274ページ
- 発行 大分県統計協会
- 販売期間

平成31年1月31日(木)まで
(なくなり次第終了です)

○下記の窓口で販売

- ・本庁 市民健康課
- ・各総合支所 地域総務課

*他にも福田書店(国東町)、国広書店(国東町)、藤井書店マルショク店(安岐町) 県内の各書店、コンビニ(ローソン、セブンイレブン、ファミリーマート)(一部除く)でも取り扱いしています。

